



# 決算説明資料

2023年3月期 Q3決算 (22/4-22/12)

---

2023年2月6日

1	全体サマリー	<ul style="list-style-type: none"><li>重要なポイント</li><li>各事業及び通期見通し</li><li>コア営業利益</li></ul>
2	実績	<ul style="list-style-type: none"><li>決算のポイント</li><li>決算ハイライト - YoY, QoQ</li></ul>
3	セグメント別損益	<ul style="list-style-type: none"><li>デジタルソリューション事業<ul style="list-style-type: none"><li>主要製品売上推移</li></ul></li><li>ライフサイエンス事業</li><li>合成樹脂事業</li></ul>
4	通期予想	<ul style="list-style-type: none"><li>通期業績予想 &lt;修正後&gt;</li><li>経営環境 (Q4及び来期の見通し)</li><li>市場環境見立て推移</li></ul>
5	トピックス	<ul style="list-style-type: none"><li>半導体材料事業 : 固定費推移</li><li>ライフサイエンス事業 : KBI新工場 生産計画の進捗</li><li>ライフサイエンス事業 : Indivumed社事業買収</li></ul>
6	中期経営方針	<ul style="list-style-type: none"><li>中期経営方針 - 進捗</li></ul>
	Appendix	<ul style="list-style-type: none"><li>連結損益計算書</li><li>連結財政状態計算書</li><li>四半期推移</li><li>IRカレンダー</li></ul>

## 【表記注記】

デジタルソリューション事業	: DS
半導体材料	: SEMI
ディスプレイ材料	: DISP
エッジコンピューティング	: EC
ライフサイエンス事業	: LS
合成樹脂事業	: PLA

# 1. 全体サマリー: 重要なポイント

## より強い成長に向けた基盤の確立

- 長期的な成長ドライバーは不変
- 顧客ロードマップに応じた積極的リソース投入と先端領域での優位性の確保
- 戦略的投資とR&Dの実行と同時に、コスト構造の見直しの推進
- オペレーショナルエクセレンスへの更なる注力

V字の収益回復・成長への道筋をつける

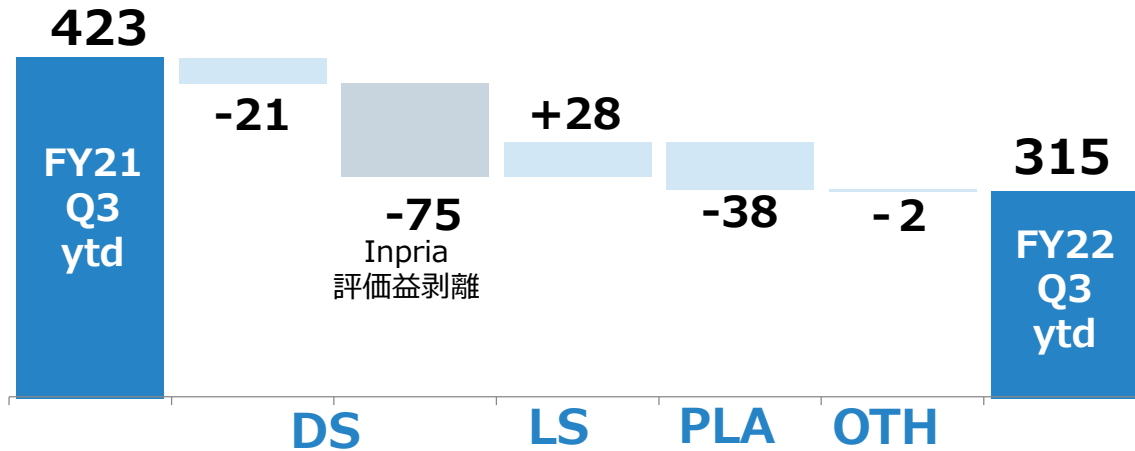
# 1.全体サマリー：各事業及び通期見通し

## 需要調整局面での戦略的投資の強化

経営環境	半導体材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年11月以降、需要環境が急落。在庫調整のため顧客も慎重な動きが継続。</li> <li>需要のV字回復時に向けてコスト構造見直し・効率化を推進。</li> <li>先端EUVのシェア拡大への戦略的投資。アジアの営業技サ体制を強化。中長期的に市場を上回る成長を確保するための強固な基盤を確立。</li> </ul>
	ディスプレイ材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年9月以降、顧客稼働率とともに徐々に需要は回復基調。</li> <li>FY23の収益改善に向け、事業再編によるコスト最適化を実施済み。</li> <li>光IPS・OLED分野でシェア拡大の取り組みが進捗。</li> </ul>
	ライフサイエンス事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界全体の堅調な需要が売上成長を促進。MBL抗原検査キット販売も好調。</li> <li>KBIのオペレーション改善と新工場の立上げに注力。</li> <li>FY23も需要は堅調見通し。KBIの売上成長とマージン改善。CRO分野での拡大。</li> </ul>
通期業績予想		<ul style="list-style-type: none"> <li>売上高は4,110億円、コア営業利益は340億円に下方修正。</li> <li>需要環境の悪化。戦略的投資の継続。</li> <li>長期的な成長機会の確保とV字の収益回復に向け、コスト削減を含むオペレーショナルエクセレンスと利益率改善の取り組みを推進。</li> </ul>

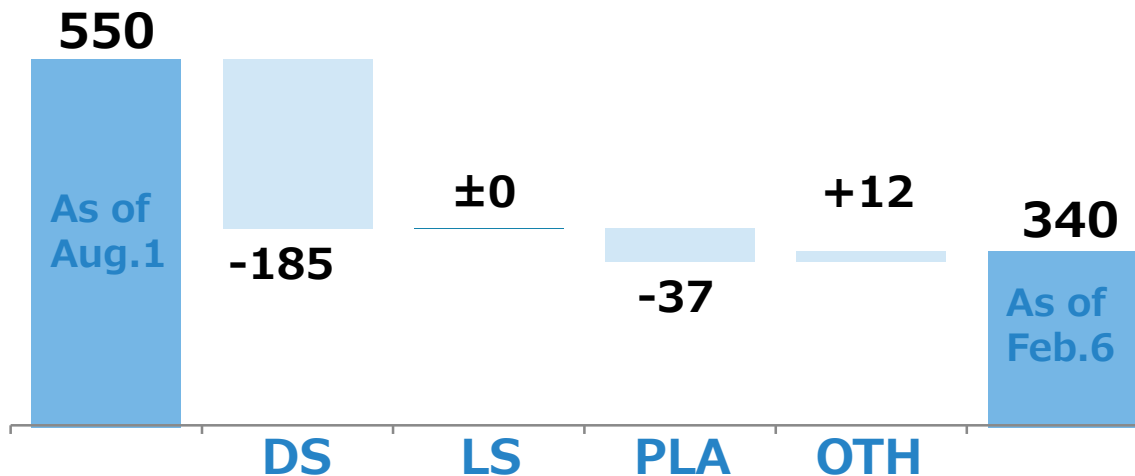
# 1. 全体サマリー: コア営業利益

Q3ytd コア営業利益 YoY(億円)



- デジタルソリューション** : SEMI:増収増益。EUV販売拡大。戦略的投資拡大。  
 DISP:減収減益。但しQ3はQoQ増収増益に転じた。  
 EC:減収減益。スマホ市場の低調。
- ライフサイエンス** : 増収増益。MBL抗原検査キットの販売拡大。  
 KBI新工場の1stバッチの生産完了。
- 合成樹脂** : 増収減益。自動車市場の回復遅れ。

FY22 業績予想修正差異(億円)



- デジタルソリューション** : SEMI:対面市場の減速(Q3、Q4の顧客在庫調整) 原料・輸送費の高騰。固定費の一時要因。  
 DISP: 対計画のパネル市場回復の遅れ。  
 EC: 対計画のスマホ市場の低調。
- ライフサイエンス** : コア営業利益見通しに変更なし。
- 合成樹脂** : 自動車市場の回復遅れ。燃料の高騰。
- その他** : コスト発生の抑制。

# 2. 決算のポイント

デジタル ソリューション 事業	半導体材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前回業績予想修正で、CMOS、後工程、一部Memory市況悪化による需要減を織り込むも業界全体で11月以降需要が悪化。Q4は大幅な減収を織り込む。</li> <li>• EUV/MORは順調に進捗。EUVは3nm以下でもシェア拡大見通し。DRAM先端分野での採用も進む。</li> </ul>
	ディスプレイ材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パネル市況及び顧客稼働は、9月以降回復、QoQ増収増益。</li> <li>• 市場は緩やかな回復傾向継続。</li> </ul>
	エッジコンピューティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主にスマホ生産調整の影響を受けた。</li> </ul>
ライフ サイエンス 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 堅調な需要環境を受け、OoQは大幅増益を達成。</li> <li>• MBLの抗原検査キット販売は、来期も好調に推移する見通し。</li> <li>• KBI 新工場は11月中旬に商業用バッチ生産の開始。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最初のバッチは1月に生産完了。</li> <li>• 追加の生産バッチも継続し、Q4を通じ製造ペースを引き上げる。</li> </ul> </li> <li>• CRO分野での買収決定（2022年12月29日）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• がん分野等の検体に強みを持つバイオバンク（取得価額：180百万ユーロ（予定））。</li> <li>• FY23より利益貢献。</li> </ul> </li> </ul>	
合成樹脂 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動車生産減の影響を受け、YoYで増収減益。</li> <li>• QoQでは、売買スプレッド改善により増収増益。</li> <li>• Q3に市場はやや回復、価格改定が進んだ。</li> </ul>	

# 2. 決算ハイライト – YoY, QoQ

※ 親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

		21Q3ytd	22Q3ytd	YoY	YoY (CER)*	22Q2	22Q3	QoQ	(億円)
連結	売上収益	2,566	3,130	+22%	+12%	1,040	1,157	+11%	
	コア営業利益	423	315	-25%	-43%	107	146	+37%	
	営業利益	421	322	-23%	-	104	145	+40%	
	親会社所有者帰属利益	354	196	-45%	-	90	48	-46%	
デジタルソリューション	売上収益	1,233	1,351	+10%	-0%	477	445	-7%	
	コア営業利益	363	267	-27%	-50%	108	82	-24%	
ライフサイエンス	売上収益	533	930	+75%	+56%	287	416	+45%	
	コア営業利益	38	67	+74%	+100%	7	60	+786%	
合成樹脂	売上収益	707	723	+2%	-3%	229	266	+16%	
	コア営業利益	51	13	-75%	-75%	4	14	+283%	
その他・調整額	売上収益	93	126	+35%	+35%	47	30	-36%	
	コア営業利益	-29	-32	-	-	-12	-10	-	
Exchange rate (USD/JPY)		111	137	+23%	0%	138	142	+2%	

YoY

増収減益

- デジタルソリューション：パネル市況悪化による減収あるも、半導体材料の販売増、円安の恩恵により増収。  
昨年度はInpriaの評価益75億含む。当特殊要因除き、半導体材料は増益となるも、先行投資の増加、ディスプレイ材料、エッジコンピューティングの減収により全体ではYoY減益。
- ライフサイエンス：CDMO, CRO, IVDの売上成長により増収、特にIVDの大幅な販売増によりYoY増益。
- 合成樹脂：増収も上期の売買スプレッド減により減益。

QoQ

増収増益

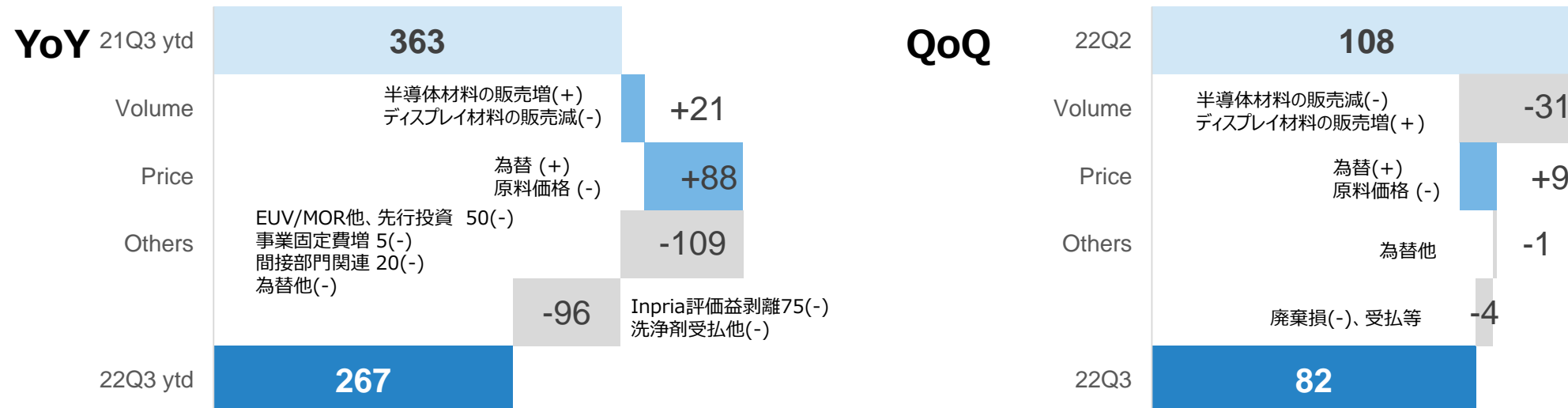
- デジタルソリューション：SEMIのQ2特殊増収要因剥落、Q3後半からの需要減により減収減益。
- ライフサイエンス：IVDの好調により増収増益。
- 合成樹脂：販売数量、売買スプレッドの改善により増収増益。

# 3.セグメント別損益：デジタルソリューション事業

	21Q3ytd	22Q3ytd	YoY	YoY (CER)*	22Q2	22Q3	QoQ
売上収益	1,233	1,351	+10%	-0%	477	445	-7%
半導体材料	820	1,012	+23%	+10%	377	330	-13%
ディスプレイ材料	346	280	-19%	-23%	80	96	+20%
エッジコンピューティング	66	59	-11%	-11%	20	19	-4%
コア営業利益	363	267	-27%	-50%	108	82	-24%
コア営業利益率	29.5%	19.8%			22.7%	18.4%	
Exchange rate (USD/JPY)	111	137	+23%	0%	138	142	+2%

(億円)

## コア営業利益差異分析(億円)



\*参考値:CER(Constant Exchange Rate/恒常為替レート、為替影響を除いたもの。)



### 3. デジタルソリューション事業：主要製品売上推移

		YoY ytd	QoQ
半導体材料	EUV	+50%程度	-5%強
	ArF	+25%程度	-10%程度
	多層材料	+20%程度	-10%強
	その他リソグラフィ材料	+25%強	-5%程度
	CMP材料	+25%程度	-5%弱
	洗浄剤	+55%程度	-35%程度
	実装材料	+5%強	-15%程度
ディスプレイ材料	配向膜	-15%弱	+35%程度
	絶縁膜	-15%程度	+20%程度
	着色レジスト	-65%程度	+10%程度
	OLED材料	-5%強	-5%程度
エッジコンピューティング	ARTON	-10%程度	横ばい

# 3.セグメント別損益：ライフサイエンス事業



(億円)

	21Q3ytd	22Q3ytd	YoY	YoY (CER)*	22Q2	22Q3	QoQ
売上収益	533	930	+75%	+56%	287	416	+45%
コア営業利益	38	67	+74%	+100%	7	60	+786%
コア営業利益率	7.2%	7.2%			2.4%	14.4%	
Exchange rate (USD/JPY)	111	137	+23%	0%	138	142	+2%

## コア営業利益差異分析

### YoY

	売上収益	コア営業利益
Total	+75%	+74%
CDMO	+45%弱	減益
CRO	+35%程度	増益
BPM	+5%程度	減益
IVD	+215%弱	増益

### QoQ

	売上収益	コア営業利益
Total	+45%	+786%
CDMO	+15%弱	減益
CRO	+5%程度	増益
BPM	+10%程度	増益
IVD	+110%強	増益

\*BPM: バイオプロセス材料

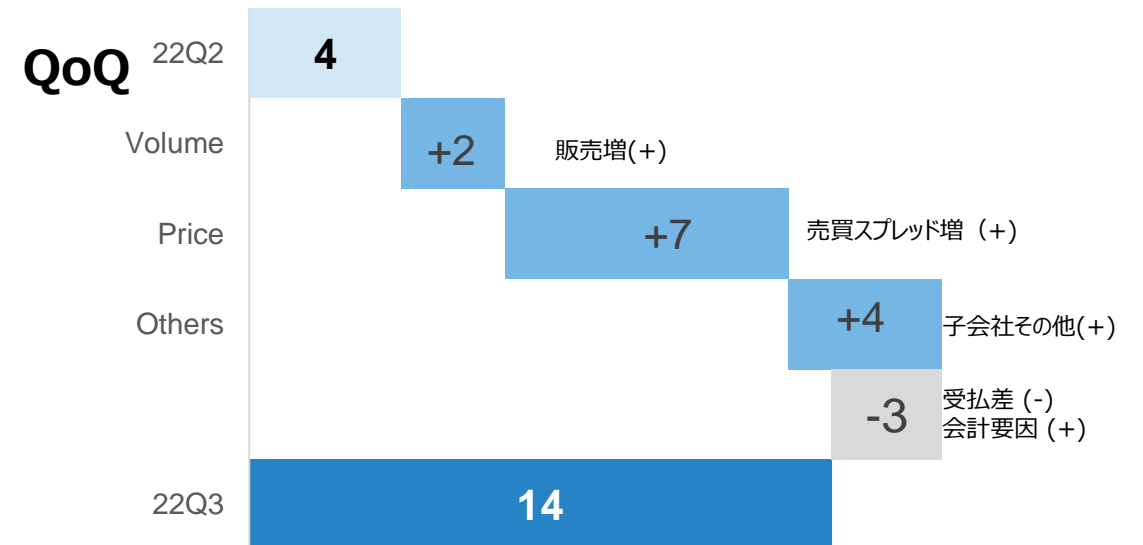
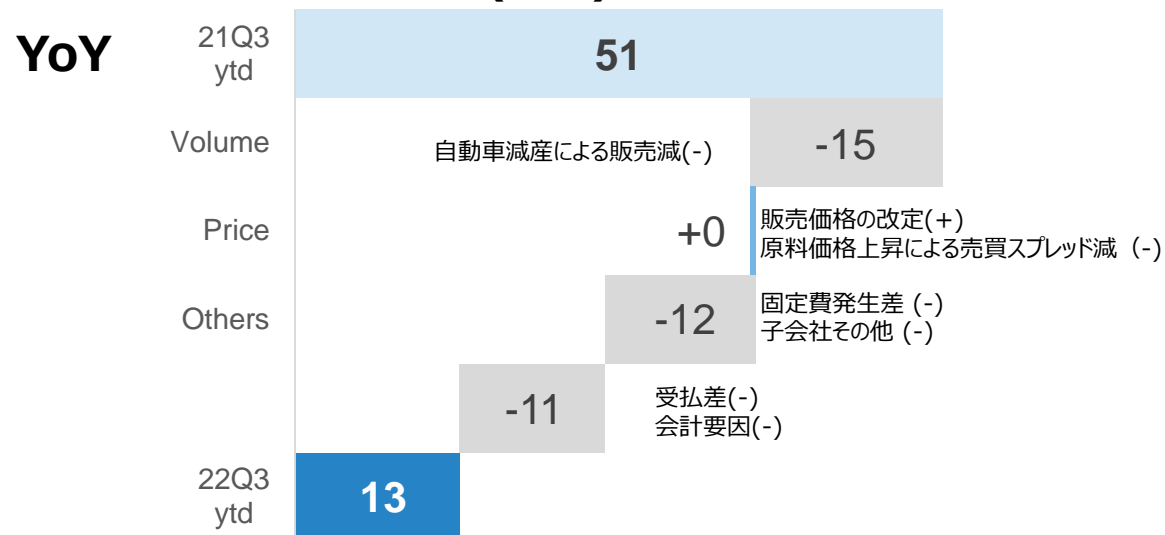
\*参考値: CER(Constant Exchange Rate/恒常為替レート、為替影響を除いたもの。)

# 3.セグメント別損益：合成樹脂事業

(億円)

	21Q3ytd	22Q3ytd	YoY	YoY (CER)*	22Q2	22Q3	QoQ
売上収益	707	723	+2%	-3%	229	266	+16%
コア営業利益	51	13	-75%	-75%	4	14	+283%
コア営業利益率	7.1%	1.8%			1.6%	5.2%	
Exchange rate (USD/JPY)	111	137	+23%	0%	138	142	+2%

## コア営業利益差異分析(億円)



\*参考値:CER(Constant Exchange Rate/恒常為替レート、為替影響を除いたもの。)

# 4.通期業績予想 <修正後>

- 下方修正
  - SEMI需要の下期の大幅減速、DISP、EC、PLA市場の対計画の回復遅れを反映
  - LSの利益見通しに変更なし
  - その他セグメントはコスト削減により損益改善

(億円)

<2023年2月6日改定値>		FY21 Act	22Q3 ytd Act ①	FY22 Pro (as of Aug.1)	FY22 Pro (as of Feb.6) ②	FY21 vs FY22 Pro YoY	'Pre Pro vs Rev Pro +/-	FY22Q4 (②-①)
連結	売上収益	3,410	3,130	4,205	4,110	+21%	-95	980
	コア営業利益	433	315	550	340	-21%	-210	25
	営業利益	438	322	560	345	-21%	-215	23
	親会社所有者帰属利益	373	196	435	240	-36%	-195	44
デジタルソリューション	売上収益	1,650	1,351	1,875	1,705	+3%	-170	354
	半導体材料	1,103	1,012	1,370	1,270	+15%	-100	258
	ディスプレイ材料	459	280	410	360	-22%	-50	80
	エッジコンピューティング	88	59	95	75	-15%	-20	16
	コア営業利益	390	267	465	280	-28%	-185	13
ライフサイエンス	売上収益	725	930	1,200	1,290	+78%	90	360
	コア営業利益	32	67	90	90	+184%	-	23
合成樹脂	売上収益	906	723	1,050	960	+6%	-90	237
	コア営業利益	53	13	55	18	-66%	-37	5
その他・調整額	売上収益	129	126	80	155	+20%	75	29
	コア営業利益	-42	-32	-60	-48	+15%	12	-16
	Exchange rate (USD/JPY)*	112	137	135	135	+20%	-	-2

\*為替前提：FY22Proの為替は足元の想定レートを使用。為替感応度は1円円安で5億円程度の影響を見込む。

※親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

# 4. 経営環境 Q4及び来期の見通し

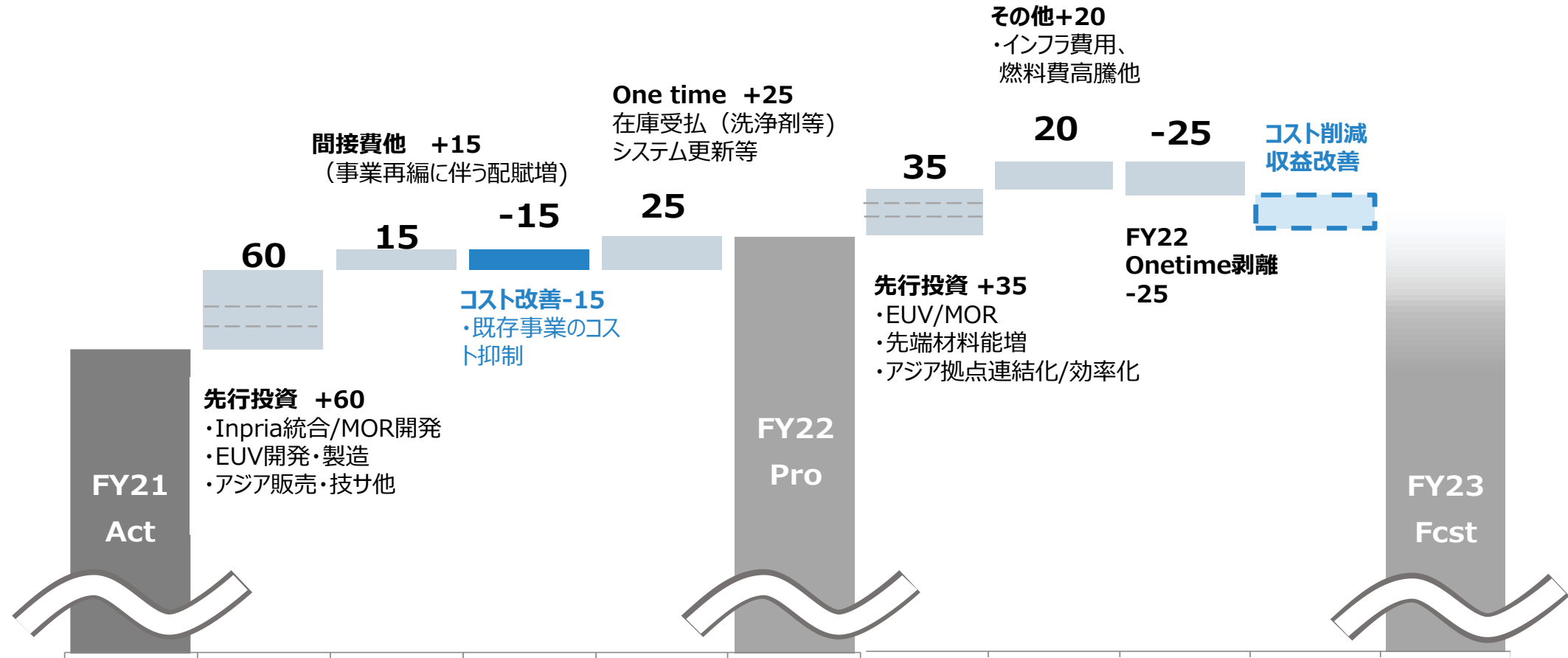
- Q4はSEMI市場の需要減速影響を受ける見込み。(但しSEMIの保守的見積りその他、DISPの季節要因(稼働日数減影響)、CDMOのコロラド工場の大修繕、PLAの定修・受払、その他期末の費用増も含む)
- FY23は、当面SEMIの調整局面だが、他のDSサブセグメントで改善方向。LSはCDMOの改善、PLAは市場回復を見込む。

	Q4見通し	FY23見通し(主に前半)	需要環境(FY22対比)
SEMI	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上はQoQで-20%を折り込む。(一時下落の約-30億円を含む)</li> <li>デバイス需要急減により、11月以降Logic, Memory, 後工程で顧客の在庫調整により大幅減収。</li> </ul>	<p><b>当面は調整局面。2Hに向けV字回復を見込む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>EUVはシェアが拡大(3nm以下、DRAM)。MORの立上げも良好。</li> <li>投資の一部延期、収益改善策を推進。</li> </ul>	
DISP	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q3に続き顧客稼働率改善トレンドは継続。但し、Q4は稼働日減少による減収。</li> </ul>	<p><b>市場回復、売上増</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市場は回復基調継続、損益は改善。</li> <li>新規材料シェア拡大も貢献。</li> <li>対面市場の改善は限定的。</li> </ul>	
EC	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマホ市場は底這いも一部シェア拡大効果見込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シェア拡大、コスト縮減による損益改善を進める。</li> </ul>	
LS	<ul style="list-style-type: none"> <li>MBLの抗原検査キット販売が出荷ずれによりQ3比減。</li> <li>KBIはQ4に新工場稼働拡大も、コロラド工場の大規模修繕による売上剥離で相殺。</li> </ul>	<p><b>需要は堅調。更にKBIの稼働拡大効果を見込む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>KBIはコロラド工場修繕完了。新工場の稼働拡大。固定費及びSCMの構造改革を実行しマージンを改善させる。</li> <li>MBL抗原検査キットは相当規模で継続。</li> <li>各サブセグメントも成長。新規CROビジネスが事業群に追加。</li> </ul>	
PLA	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q3比では販売減、定修・受払等のコスト増を織り込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車販売回復による販売増を見込む。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初計画に対しコストを大幅抑制で進捗。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FY22並みに抑制。</li> </ul>	

# 4. 業績見通しに関する市場前提

	FY22見通し			FY23見通し
	22/4	22/8	今回 (23/2)	今回 (23/2)
為替 (USD/JPY)	110	135	135	—
シリコンウエハインプット (YoY)	+4-7% (約+7%)	+4-7% (約+5%)	+/-0% (Q3→Q4は約-10%)	約-5%
パネルメーカー稼働率 (YoY)	86%	78% (ボトム:70%割れ(Q2))	70% (ボトム: 58%(9月))	75~79%
スマホ出荷台数 (YoY)	+2%	-3%	-9%	0~+3%
グローバル自動車生産台数 (YoY)	+10%	+10% (下期回復)	+8%	+4%
バイオ医薬品市場 (YoY)	+7%	+7%	+7%	+7~10%

# 5.半導体材料事業：固定費推移



※FY23 見通し  
事業税増減や一時費用は含まない。

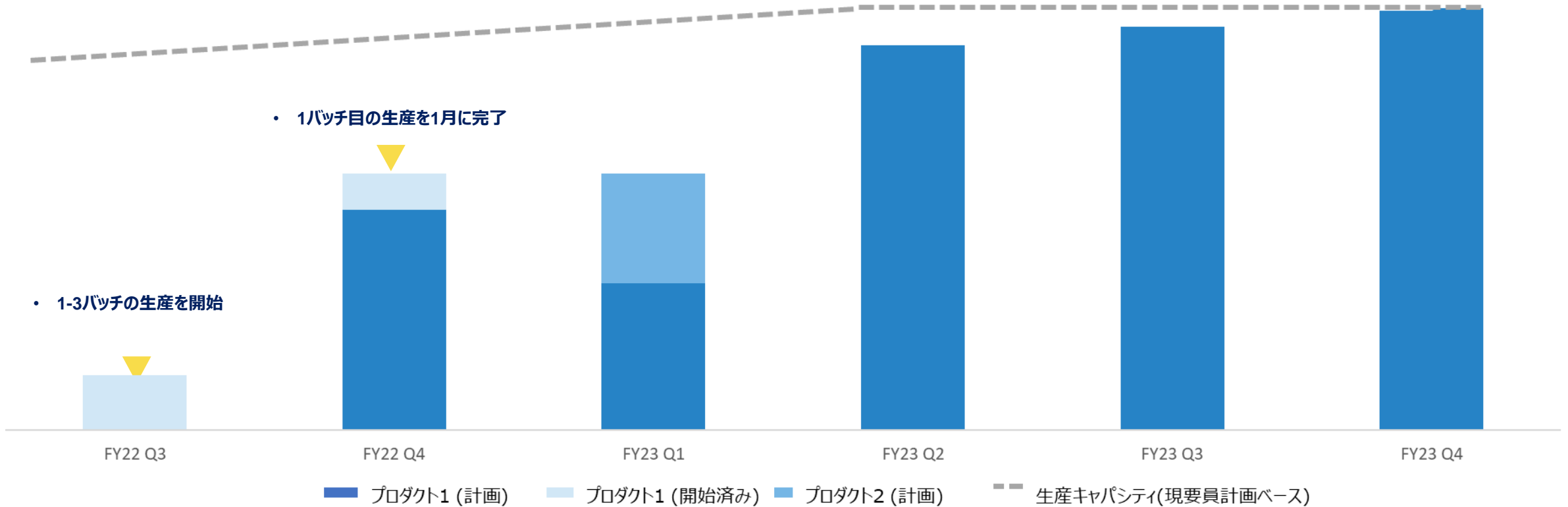
\*CERベース(Constant Exchange Rate/恒常為替レート、為替影響を除いたもの。)

# 5. ライフサイエンス事業：KBI新工場 生産計画の進捗



段階的に稼働拡大、FY23Q4に向けてフル稼働(現要員計画ベース)を目指す

生産バッチ数と稼働状況



\*2023年1月末時点



# 5. ライフサイエンス事業: Indivumed社の事業買収



## CRO分野: Indivumed GmbH (Indivumed) のサービス事業 (Indivumed Services business) の買収

目的・シナジー	<ul style="list-style-type: none"><li>• Crownが持つ独自のPreclinical serviceに加え、Clinical Serviceへの事業範囲拡大及び欧州への地理的拡大が可能。</li><li>• 多品種・高品質なサンプル供給によるCrownのin vivo/in vitroスクリーニングプラットフォームの強化及び、バイオマーカー開発サポート事業の強化を目指す。</li></ul>
契約締結日	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2022年12月29日（2023年4月にClosingを予定）</li></ul>
取得価額	<ul style="list-style-type: none"><li>• 180M 百万ユーロ（予定）</li></ul>
IndivuServ概要	<ul style="list-style-type: none"><li>• Indivumed GmbHはドイツハンブルグ本社のCRO。Indivumed Services business（通称IndivuServ）はその一事業であり臨床検体入手及び分析サービスを展開。</li><li>• がん領域を中心に、手術検体・血液検体の提供、バイオバンク、クリニカルサービス事業を行う。該社独自の検体取得方法に基づく卓越したクオリティーはマルチオミクス分析に最適。世界のがん治療領域市場はCAGR10%以上で成長。当該事業は高品質及び豊富なバイオバンクサービスにより市場を大きく上回る成長を継続。</li><li>• 約100万検体のバイオバンク及び欧米、アジアでの60を超える医療ネットワーク保有に強みをもつ。</li></ul>
JSRの業績への影響	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2023年度のClosing以降はライフサイエンス事業の連結を開始。会計上の無形資産評価等はClosing後に実施。</li></ul>

# 6. 中期経営方針

## Vision

- 持続的(**Sustainable**) 成長を目指し、すべてのステークホルダーに価値を創造する
- あらゆる環境変化に適応する強靱な(**Resilient**)組織を作る

## 事業ポートフォリオ

### コア事業

デジタル × ライフ  
ソリューション × サイエンス  
(特に半導体材料)

- **SEMI**  
市場を上回る成長。  
M&Aも選択肢として  
事業拡大。
- **DISP**  
事業最適化。  
利益成長への移行。

- 売上高 1,000億円超  
ROS 20%を達成。
- グループ全体のシナジー  
強化により持続的成長  
を実現。

## 事業目標

ROE

**10**%以上

Core OP

**最高益更新**

600億円以上  
デジタルソリューションおよび  
ライフサイエンス

## 組織体制

**強靱な  
(Resilient)  
経営基盤**

イノベーション

デジタル化

ESGコミットメント

従業員エンゲージメント

# 6. 中期経営方針 – 進捗

進捗		
ビジョン	事業ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア事業への戦略的投資を強化（2022年4月1日、エラストマー事業譲渡完了）。</li> <li>2022年12月CRO分野の買収（前述、昨年度は半導体分野のInpriaを買収）。</li> </ul>
	事業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標変更なし：FY24の最高益600億円の更新。</li> <li>短期的需要悪化に対応する基盤強化。</li> <li>戦略投資継続、DX等将来の利益拡張への投資。</li> </ul>
	資本配分	<ul style="list-style-type: none"> <li>増配と自社株買いを実施済。</li> <li>資本配分方針に変更なし。足元は営業CF改善にも注力。</li> </ul>

## 事業戦略

デジタルソリューション事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端LogicでのEUVシェア拡大が進展、Inpria統合によるMORビジネスも順調に拡大。</li> <li>半導体材料：中期的シェア拡大への礎が整う。EUV、MORの開発強化、営業技サ体制強化を実施（台湾、中国、韓国等）。</li> <li>ディスプレイ材料：拠点統廃合と最適化を実施済。市場は回復方向。OLED等新材料の展開に注力。</li> <li>短期的な市況悪化に対応し、収益改善、コスト削減を推進。</li> </ul>
ライフサイエンス事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>KBI新工場の稼働拡大に最注力 → 来年度の最大利益拡大ドライバー。</li> <li>売上高1,000億円はFY22に達成見通し。売上成長は順調。ROS目標20%達成へマージン改善を確実に進める。</li> <li>CRO分野の事業ポートフォリオを追加。ユニークな事業群を当社LS事業の強みとしていく。</li> </ul>

# 【APPENDIX】連結損益計算書



(億円)

	21Q3ytd	22Q3ytd	YoY
売上収益	2,566	3,130	+22%
売上原価	1,593	2,013	+26%
売上総利益	973	1,117	+15%
販管費	628	808	+29%
その他の営業収益/費用	75	13	-83%
持分法による投資損益	-0	1	-
営業利益	421	322	-23%
金融収支	10	11	+2%
法人所得税	94	138	+47%
継続事業からの当期利益	337	195	-42%
非継続事業からの当期利益	37	-	-
当期利益	374	195	-48%
親会社所有者帰属	354	196	-45%
非支配持分	20	-1	-

EPS(JPY)	164.52	93.73	-43%
EPS - 継続事業 (JPY)	146.80	93.73	-36%
EPS - 非継続事業 (JPY)	17.72	-	-

Exchange rate(USD/JPY)	111	137	+23%
------------------------	-----	-----	------

## コア営業利益から営業利益までの調整

(億円)

	21Q3ytd	22Q3ytd
コア営業利益	423	315
減損損失戻入	12	-
事業構造改革費用	-	-1
固定資産売却損	-	-2
子会社出資金評価損	-14	-
子会社株式売却益	-	10
その他	0	0
営業利益	421	322

# 【APPENDIX】連結財政状態計算書



	22/3E	22/12E	+/-
流動資産	4,370	3,134	-1,236
現金及び現金同等物	456	705	+249
営業債権及びその他の債権	761	979	+218
棚卸資産	1,049	1,170	+120
その他	191	281	+90
売却目的保有に分類される処分グループに係る資産	1,913	-	-1,913
非流動資産	3,724	3,823	+99
有形固定資産	1,595	1,655	+60
のれん	1,176	1,270	+94
その他の無形資産	246	266	+20
その他	706	632	-75
資産 合計	8,094	6,957	-1,137
流動負債	2,883	1,881	-1,001
営業債務及びその他の債務	635	795	+159
社債及び借入金	692	684	-8
その他	400	402	+3
売却目的保有に分類される処分グループに係る負債	1,156	-	-1,156
非流動負債	1,064	1,205	+142
社債及び借入金	487	707	+220
その他	576	499	-78
負債 合計	3,946	3,087	-860
親会社の所有者に帰属する持分	3,760	3,623	-137
非支配持分	387	247	-140
資本 合計	4,147	3,870	-277

(億円)

## FY22Q3の資本政策TOPICS

- 約300億円の自社株買いを実施。
- 約1,773万株の自己株式を消却。  
(消却前の発行済株式の総数に対する割合；8%)
- 約150億円の配当金支払 (FY21に増配)。
- 約250億円の社債発行。
- 約500億円の事業譲渡関連収入。
- 資本的支出、等。

	FY21 Act	FY22 3Q ytd.Act	FY22 Pro
資本的支出	419	241	360
減価償却費*	194	189	235
研究開発費	241	180	255

(億円)

\*IFRS16号によるリース資産償却を含まず。 \*\*FY21は継続事業のみ表示。

\*減価償却、資本的支出、研究開発費は期初想定為替のまま。

### Net Debt

(現金及び現金同等物 - 有利子負債)

2022/3E：約720億円  
2022/12E：約690億円

### 自己資本比率

(親会社所有者持分比率)

2022/3E：46.5%  
2022/12E：52.1%

※継続、非継続両事業を表示

# 【APPENDIX】 四半期推移



(億円)

		21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	22Q1	22Q2	22Q3	Q3 YoY	Q3 YoY (CER)*
連結	売上収益	823	859	884	844	933	1,040	1,157	+31%	+20%
	コア営業利益	126	105	192	10	62	107	146	-24%	-38%
	営業利益	111	117	192	17	73	104	145	-24%	-
	親会社所有者帰属利益	82	94	178	19	57	90	48	-73%	-
デジタルソリューション	売上収益	393	413	427	417	429	477	445	+4%	-6%
	コア営業利益	104	91	167	27	77	108	82	-51%	-69%
ライフサイエンス	売上収益	163	174	196	191	227	287	416	+112%	+92%
	コア営業利益	12	8	19	-7	0	7	60	+216%	+241%
合成樹脂	売上収益	238	240	229	199	228	229	266	+16%	+10%
	コア営業利益	19	16	16	3	-5	4	14	-12%	-12%
その他・調整額	売上収益	29	32	32	36	49	47	30	-5%	-5%
	コア営業利益	-9	-10	-10	-13	-10	-12	-10	-5%	-6%
Exchange rate (USD/JPY)		109	110	114	116	130	138	142	+25%	0%

※コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

※親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

# 【APPENDIX】IRカレンダー



LS  
事業説明会

2023年3月10日

FY22 Q4  
決算発表

2023年4月27日

同日、金融機関向け説明会を実施予定

※上記の予定は、都合により予告なく変更となる可能性があります。

- 本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。